まちに活力注入！

地域おこし協力隊

～今年度着任の隊員を紹介します～

問総合政策課まちづくり推進係☎（26）7790

現在9人の隊員が活動中！

地域おこし協力隊は、都市部の人材を地域に呼び込み、地域ブランドの開発などをとおして定住・定着をめざす取り組みです。本市でも、さまざまな分野でまちを元気にするために隊員が活動しています。

本市は、基幹産業である「農業」、まちの特色である「羊の飼養」をはじめ、さまざまな分野から地域の活性化に取り組むべく7つの採用枠を設けています（右表）。

また、2024年度からは、協力隊員の活動を体験できる2泊3日のカリキュラム「お試し協力隊」もスタートし、応募しやすい環境づくりをすすめています。

2011年度に初めての隊員を採用して以降、これまで41人の隊員たちがさまざまな取り組みを行い、士別を盛り上げてきました。退任後も市内で活動する方が増え、OB・OGを含めた組織「OKOSHIBETSU（おこしべつ）」も活動しています。

今年度は、羊の飼養2人、起業型1人の計3人を採用し、農業支援1人、羊飼養3人、地域振興2人、起業型3人の総勢9人が現役隊員として活動しています。

次ページから、今年度着任の3人を紹介します。

採用枠	おもな活動内容
起業型	市内での起業・事業展開に向けた活動など
農業支援（耕種）	就農に向けた活動、地域農業の情報発信など
農業支援（酪農）	
羊飼養	サフォーク羊の飼養、PR活動など
林業	森林整備、林業に関する知識・技術習得など
まちなか観光	中心市街地の活性化、空き店舗対策など
地域振興	交流人口や関係人口の創出、地域活性化など
お試し協力隊	短期間の隊員体験

●羊飼養

村山（むらやま） 洋介（ようすけ） 隊員

/// プロフィール///

神奈川県横浜市出身、現在22 歳。中学卒業後に隣町・相模原市の農業高校へ進学し、その後北海道本別町の農業大学校へ進学。大学校卒業後は農業共済組合に就職し、人工授精師として1年間従事したのち、本市の協力隊に応募、着任。

隊員応募のキッカケ

酪農の道にすすむ最初のきっかけは、高校進学のときです。進学先のひとつとして農業高校を見学した際、これまで身近になかった家畜の飼育現場を見て、酪農という仕事に興味を抱きました。

高校、大学校で学んだ酪農は、基本的に牛の飼育がメインでした。在学中にさまざまな資格も取得し、多くの実習をとおして酪農の面白さも実感しました。

人工授精師として働いていたとき、友人から「地域おこし協力隊として羊の飼養ができるまちがある」と聞き、自分でも調べるうちに士別市を知りました。実は、牛の飼育を学びながらも高校のときから「羊はかわいいし育ててみたい」と思っていたため、すぐに決心しました。研修という形で挑戦がしやすい地域おこし協力隊だったことも、応募の後押しとなりました。

現在の活動

現在は、羊のエサやりや牧草の補充、毛刈り、羊舎（ようしゃ）の掃除などがおもな業務です。

「牛の方が忙しいだろう」というイメージを持っていましたが、実際に羊の飼養に携わってみて、意外とやることが多いことを知りました。たとえば、牛は体調の変化や発情のタイミングが比較的分かりやすいのですが、羊はそうした変化が表に出にくいため、小さな変化でも見落とさないよう、常にしっかり見守る必要があります。

どのような業務でも、羊がかわいくて仕方ないので楽しいです。羊飼養の奥深さに、日々学びを重ねています。まだ出産に立ち会ったことはなく、周囲からも大変だということは聞いていますが、生まれたばかりの子羊を早く見たいという期待が大きいです。

同じ草食動物として、牛の飼育と通ずる部分も多いので、過去に学んだことを活かしながら、羊を育てています。

▲羊のエサの準備をする村山さん。

▲羊への愛情を深めつつも「牛の飼育から離れて、改めて牛もかわいかったことに気づきました」と話す村山さん。

未来の展望

協力隊退任後は、できれば士別で自分の羊牧場を持ちたいと思っています。しかし、実際に羊の飼養を経験するなかで、牧場運営の難しさも感じました。ほかの牧場も見学しながら、隊員期間の3年間でしっかり経験を積んで、退任後にできること、やりたいことを探していきたいと思っています。

●羊飼養

宝達（ほうだつ） 美穂（みほ） 隊員

/// プロフィール///

東京都杉並区出身、現在44歳。高校まで地元で過ごした後、北海道大学獣医学部へ進学し卒業。東京へ戻り、動物病院の勤務と都内大学の研修医を経験。その後家庭を持ちながら薬学系の仕事に従事し、37歳で道職員として獣医に復帰。５年間勤めたのち、本市の協力隊に応募、着任。

隊員応募のキッカケ

動物病院や大学、家畜保健衛生所など、獣医としてさまざまな場所で働いてきましたが、そのなかで自分が家畜について何も知らないことに気づいたことがきっかけでした。どういった場所で育てられ、どんなものを食べているのか。飼育している農場の仕事も知りませんでした。

気づいてからは「飼育のことも知らないと、ちゃんと診断できないのでは」という思いが常にありました。また、「もっと農場に近い場所で、動物のお医者さんがしたい」という気持ちもありました。

そんなとき、「羊　研修」で検索したところ、士別市がヒットしました。羊を選んだ理由は、家畜のなかで一番好きな動物だったこと、飼育だけでなく羊肉業界や流通など、まったく未知の世界に興味がわいたからです。

子どもがいることもあり、協力隊に挑戦するかどうかはしばらく悩みましたが、決め手は「お試し協力隊」への参加でした。そこで羊の飼養に触れ、未知の世界の一端が垣間見えたことや、「羊のお医者さん」へのニーズを感じたことが、挑戦を決心する後押しとなりました。

現在の活動

羊飼養の面では、エサやりや牧草の搬入、放牧の巡回などを行っています。シーズンによって業務が変化するので、いまは出産に向けた羊のカップリング（交配）なども行っています。

また、獣医として体調の悪そうな羊の対応もしていますし、今後、エコーを使った妊娠鑑定も行う予定です。知りたかった飼養の知識を、毎日学んでいます。

獣医の面では、上士別町の動物病院で週１回、研修をさせてもらっています。治療の見学や診察の手伝いのほか、人工授精も経験しました。隊員活動をとおして、羊飼いと獣医両方の経験と知識を身につけています。

▲餌の入ったバケツを持ち、羊に囲まれる宝達さん。

未来の展望

現在は、飼育をとおして羊の病気に関する知識を深めることを目標にしています。２年目からは、市内の牧場を定期的に巡回し、飼養を手伝いながら羊を診て回る「羊の動物病院」を開くことが目標です。自分でも羊を育てたいので、いま、牧場と診療所を併設できそうな場所を探しているところです。

３年目は、開設した診療所を軌道に乗せることが目標です。ちなみに、診療所の名前は「美穂めぇめぇクリニック」に決めています。この看板を士別に建てて、協力隊退任後も〝地域の動物のお医者さん〟として暮らしたいです。

▶獣医として市内で実地研修を行っている。

●起業型

藤崎（ふじさき） 浩一（こういち） 隊員

/// プロフィール///

大阪府出身、現在56歳。趣味が高じて2012年に脱サラし、札幌市内に革製品素材販売店「Fu's Room」を開店。おもに牛革、エゾシカ革を扱うも、2017年から士別市の協力のもと羊革「サフォークレザー」の開発に着手、2018年に商品化に成功。今年、さらなる展開に向け起業型の協力隊に応募、着任。

隊員応募のキッカケ

サフォークレザーを開発するそもそもの発端は、「北海道はジンギスカンが有名なのに、どうして羊革製品がないのだろう」という疑問でした。そこで、羊革製品の実現に向けて、羊で有名な士別に連絡を取ったところ、快く協力してもらえることになり、試行錯誤の末サフォークレザーは完成しました。

2018年から羊革製品の販売を開始し、士別市内の各店舗にも商品展開していました。長年士別と札幌の往復を続け、士別市内にも応援してくれる人が増えてきました。そうしたなかで、士別に拠点を置かなければ、いま以上の活動は難しいと考えるようになりました。同時に、拠点が札幌にある以上、自分はあくまで〝関係人口〟だという思いもありました。

起業型の地域おこし協力隊ができた話を聞き、すぐ応募を考えました。札幌と士別の2拠点も考えましたが、やるからには覚悟をもって臨もうと、札幌の拠点はすべて畳んで協力隊に応募し、採用されました。

▲「拠点が整ったこれからが本格始動です」と話す藤崎さん

現在の活動

拠点を士別に移したことで、工作機械などすべての道具を新しい工房にセッティングし直す必要があったため、現在はようやく士別の制作環境が整ったところです。

各店舗への商品卸しもあったので、拠点を整えるかたわらキーホルダーや小銭入れ、パスケースなどを制作していました。

また、新たな商品の開発も進めており、現在試作品としてサフォークレザー製のジャンパーを完成させました。拠点を士別に移したことで、加工前の羊皮の仕入れがかなりスムーズになったことを実感しています。

市内でのワークショップの開催や、来年1月に東京で行われる展示会への出展を予定しています。「羊のまちでつくる羊革」と言えるようになり、商品の説得力が段違いに上がったと感じています。

▲試作の羊革ジャンパーを検品する藤崎さん

未来の展望

羊革素材の販売に注力したいです。その理由は、羊毛と同じように、市民のみなさんに羊革加工を広めていきたいからです。羊毛に比べてハードルは高いかもしれませんが、加工をとおして羊革の良さを知ってもらい、まちに根付かせたいです。加工教室の開催も考えています。

また、羊革と羊毛、羊肉が連携した取り組みも考えていきたいです。

隊員期間の3年で経済活動を確立させつつ、羊に関するさまざまな取り組みに積極的に参加していきたいです。